

通常学級における「個別の指導計画」(例) []年生 []

【児童生徒の様子】

◆苦手なこと、配慮事項、好きなこと、得意なこと等、支援の手がかりとなる児童生徒の様子について記載。

長期目標

◆子どもの困りに着目し、躓きの程度・要因を分析した上で、1年間で達成できそうな目標を設定。目指す子どもの姿がわかるよう、具体的に書く。
 ◆生活面、学習面等場面ごとに設定する場合、長期目標が複数になることも考えられる。
 ◆短期目標の達成状況により、変更する場合もある。

	短期目標	手立て	評価
生活面	①学期	◆ <u>短期目標を達成するための手立て</u> を設定する。 ◆躓きの要因分析から仮説をたて、手立てを考える。 (困難さの例) 細かな形の違いを見分けるのが苦手なため漢字を書くことが難しい。 (手立ての例) 漢字を間違えてもすぐに消さずに、正しい漢字と比較し、違いに気づかせる。 (ミニホワイトボードの活用)	◆児童生徒の到達度、講じた手立ての有効性という視点で評価する。(記述、または記号) ◆評価によって、次段階の目標と手立てを見直す。 ◆ <u>短期目標、手立てに関わる事柄のみ</u> を記載する。
	②学期	◆ <u>長期目標を達成するための目標</u> 。長期目標とのつながりを意識する。 ◆目指す子どもの姿がわかるよう、具体的に書く。 ◆学期ごとや前後期で設定。	
	③学期	◆見通しをもって、あらかじめ3学期(後期)まで設定しておくことが好ましい。	
学習面	①	◆ <u>達成状況によって変更する場合もある</u> 。 ◆支援が段々減っていくように、 <u>本人の自立を目指した手立て</u> を考える。 ◆合理的配慮についても記載する。 (教材の配慮例) 文章を読みやすくするためにふりがなを付ける。	
	②		
	③	※修正は取消線を引いて朱書きなど、過程を残すようにします。 ※「個別の指導計画」の手立てが、授業の「特別な支援を要する児童生徒への手立て」につながります。日々の授業に生かすために、定期的な支援会議や学年部会議等で「個別の指導計画」をもとに協議するなどして活用するとよいでしょう。	

◆長期目標にに応じて、場面を設定。例として、生活面(学校・家庭含む)、学習面を設定。(行動については生活面に入れるとよい。)児童生徒の躓きが生活面のみであれば学習面の欄等を削除したり、優先する場面に重点をしばったり等、児童生徒の実態に合うものにする。